

解答

一 問一 A ウ B イ C オ D エ E ア

問二 老眼になることを待ち望んでいる

問三 A 焼け石に水 B 馬の耳に念仏 C 青菜に塩 D 弱り目にたたり目

E ぬかに釘

問四 A 警報 B 苦情 C 蒸気 D 流行 E 制服

問五 眼鏡を作ったときの年齢

二 一 力 2 ウ 3 エ 4 ア 5 イ

三 一 イ 2 ア 3 ア 4 イ 5 ア

四 一 力 2 エ 3 イ 4 オ 5 ウ 6 ア

五 一 際（立つて） 2 思い（立つて） 3 沸き（立つた） 4 浮き足（立つた）

5 つま先（立つて）

六 一 頼 2 説 3 愛 4 別 5 理

解説

一 「老眼鏡が必要な身の上になつたとき、かねてより「丸い眼鏡に対するあこがれ」のあつた筆者が、「レンズの形や大きさが自由にできる」「理想の眼鏡フレーム」を見つけ、「生まれて初めて眼鏡をあつらえることになったの」は「十五年前」…。

問一 【A】（愕然としました）・【B】【C】（ひそかに心に決めていたのです）・【D】（うれしかったのは）・【E】（残念なことがひとつ——と、（ ）内に示した気持ちを表す言葉に注目しましょう。）

問2 「根が楽天的な性分ですから」と、気持ちをクルリと切り替えましたからも、いわゆる「プラス思考」で「樂天的」な筆者の姿が感じられますが、何と言つても、設問にある「老眼になつたあかつき」という言葉からそれがはつきりと伝わってきます。「あかつき」※「老眼になつたあかつき」の「あかつき」のほうに傍点がアンダーラインき」とは、かねてから願いが実現したそのときという意味なので、老眼になることを筆者は願っていた（待ち望んでいた）ということになります。

問3 「○○に△△」の形の言葉をどれだけ知つてゐるかが問われていますが、難問ではないようです。A 「焼け石に水」の「水」は大量の水ではなく、少しの水です。B 「馬耳東風」つまり「馬の耳に風」という言葉もありますが、これには「忠告」という言葉が生かされていません。(ここ)は「念仏」がふさわしい。C 青菜に塩を振つて実感しましょ。D 「泣きつ面に蜂」というのもあります。

問4 “製服”と書き誤らないように。

問5 なぜ「直径四十八ミリの丸眼鏡を作つてもらつたのか」。この後にある「レンズの直径の最大サイズが六十三ミリなので、もう、自分の年齢と同じサイズの眼鏡はできません」から、年齢と関係がありそうです。この文章のはじめのほうで、「四十八歳でとうとう老眼鏡が必要な身の上に」とあり、それが「十五年前」とくれば、筆者の今の年齢は六十三歳だから、「直径六十三ミリのレンズ」の眼鏡はできないとなつて、つじつまが合います。

二 いざれも文語調の言い回し（多くは連語）だが、ふだんの日常生活のなかで目にも耳にもする言葉です。一「やらずもがな」とは、やるべきでない・やらくてよい、の意。「あらずもがな」「言わずもがな」などの表現もよく使われる。2「聞こえよがし」とは、とくに悪口や皮肉などを本人にわざと聞こえるように話すようす。3「（ ）ならではの（ ）とは、（ ）だけ・（ ）しかない、の意。後に打消しの語をともなつて、“京都ならでは見ることとのできない街のたたずまい”というようなくらいに使われることが多い。この場合は、（ ）でなくては・（ ）以外には、という意味になります。4「さもありなん」とは、そうであつても全くおかしくない・当然だ、の意。5「いなや」は、「動詞」や「いなや」の形で使われ、（ ）するとすぐに・（ ）と同時に、の意。

三 アは逆接、イは動作の同時進行を表します。

四 一 「染め」「燃ゆ」から、「夕焼け」という言葉がうかぶでしょう。また、「早出の月白し」から、時刻が夕方であること、「白」と対照的なものがあることなども分かります。2 子どもが手で大きな円をつくって知らせる、見上げる観覧車と同じ高い位置にある、よく見ようとして窓ガラスをふく、などから満月を想像するのは容易でしょう。

3 白い“それ”が庭の芝にやわらかく置く、“それ”を見て子どもが喜ぶと、いう“それ”は何でしょうか。4 夏野菜の茄子を洗つていったもの、見晴らしのよい峰では“それ”を避ける場所はない、月が上るような時間帯などから考えます。5 春雨なら濡れて行こう、あるいは、くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨の降る（正岡子規）という言葉を見聞きしたことはありませんか。6 「空模様」から気象に関係あり、「空を剥がして」とは台風一過の青空のことか、あるいは「魔球を覚え新コース」は迷走する台風のことだらうか…。

五 「立つ」という語彙の豊富さが問われています。1 「際立つ」は、ほかとの違いがはつきりしていて目立つさま。

2 「思い立つ」は、あることをしようという考えを起こすようす。3 「沸き立つ」は、大勢が熱狂して騒然となるようす。4 「浮き足立つ」は、そわそわして落ち着かなくなるようす。5 「爪先立つ」は、伸び上がるようになかとをあげ、足の指先だけで立つようす。

六 全問同様、語彙とくに熟語の語彙の豊富さが問われています。いくつもの漢字と結びついて熟語を作る漢字のはずですから、たとえば一の例で、「悲鳴」などと、他と組み合わせて熟語を作りにくく「鳴」のよくな漢字を考えてはいけません。